

2 職員について

個別ケアの実現

これまでの集団レクでは楽しめて盛り上がるよう職員が主導する傾向。

小グループ活動によって個別ケアの環境が整った。

利用者の自主性、意欲や自宅での継続の必要性に職員が気づいた。

次の個別ケア能力が高まった。

利用者一人ひとりの多様で隠れがちなニーズの把握

個別のニーズに合う活動を考える企画力・創造力

利用者一人ひとりへの目標設定、意図的な援助、評価

利用者の意欲を起し、主体的に活動してもらうサポート力

3 ボランティアについて

新たなボランティア像の提示

高齢者福祉施設におけるボランティアについては、従来は自分の特技を教えたり披露するものが中心。

利用者の自立をサポートする新たなボランティア像が受け入れられ、ボランティア自身の生きがいとなった。

ボランティア研修の必要性の再認識

元気高齢者といえども高齢者福祉施設や高齢者の身体機能の状況、認知症等について熟知していないケースが多い。

高齢者施設における円滑なボランティア活動のためには、一定の研修が必要。